



G. William Skinner

Marketing and Social Structure
in Rural China

中国農村の 市場・社会構造



G.W. スキナー

訳

今井清一

中村哲夫

原田良雄

法律文化社

G.W.スキナー

中国農村の市場・社会構造

今井清一・中村哲夫・原田良雄 訳

法律文化社

訳者紹介

今井清一（いまい せいいち）

1938年生／大阪市立大学大学院文学研究科（地理学）博士課程修了
現在、武庫川女子大学文学部教授

中村哲夫（なかむら てつお）

1942年生／大阪大学大学院文学研究科（歴史学）修士課程修了
現在、富山大学教養部助教授

原田良雄（はらだ よしお）

1939年生／広島大学大学院文学研究科（英語学）修士課程修了
現在、北里大学医学部助教授

〈検印省略〉

¥ 1,800

1979・11・10 発刊

中国農村の市場・社会構造

訳者	今井清一	中村哲夫	原田良雄
発行者	柴田	稷	

発行所 株式会社法律文化社
京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71
振替 京都 10617 番

中村印刷株式会社・池田製本所

3032-108021-7729

日本語版への序文

中国の市場取引機構に関する私の初期の著述が、ここに十分かつ確かな日本語訳で役立てられたことを卒直に喜んでいる。中国の市場取引を扱った学識の大部分は、日本人の中国学者によって生みだされてきたし、日本の学者に対して自分の分析をまず最初に提出しなかったのである。言語の障壁を越えることを可能にしてくれた全ての人びと、とりわけ中村哲夫氏、今井清一氏に対しその適切で丹精こめた翻訳に感謝する。日本の読者からの批評や示唆を心待ちにしており、この翻訳が可能にしてくれた知的な相互交換を期待している。

本書の分析が完成してから今や15年が過ぎ去り、この問題に関して多くの新しい研究が出版されてきた。修正、発展させた見解を用意しようと切望しているが、他の学術上の出版にかかわっているため、今はその余裕がない。この数年間、日本で現われた多くの関連ある出版物は、本書の読者になじみ深いものであろうが、私は本書で述べる論旨に直接関係する、その後に出た英文の出版物のいくつかについて簡単にふれておきたい。

私自身のこの題目に関するその後の考えを先鋭にしたものに、私の最近の著書である「王朝時代末期の都市」 *The City in Late Imperial China*, Stanford University Press, 1977 のなかの論文がある。その巻のなかで、標準、中間、中心市場町は、8段階を構成する経済中心地の基底部の3段階

にすぎないと論じている。本書の研究に用いたよりも、ずっと広範な第1次史料の使用と、もっと精巧な方法論の使用とに基礎をおき、1893年当時の中国の中心地に関する数量モデルに発展させた（該書：223～224頁、285～289頁）。私の達成した推計では、中国の本土（台湾、^{マณฑル}満州、中央アジアを除く）の中心地の総計は、約39,000である。そのうち約28,000が標準市場町で、8,000が中間市場町で、2,300が中心市場町である。もちろん、数千もの新しい市場町が1893年から1948年の間に設立されたのは事実であり、満州を含めると中心地の数はもっと高いものになろう。それにもかかわらず、今では本書の第2章で行なった、いく分か多いめに見積った概算（1900年～1948年に存在した中心地：63,000）を下まわるものと信じる。

そういう修正を行なったことに私が含ませた意味のうち、むしろもっと重要なのは、どのようにして市場取引機構を連鎖し、究極には高位の交易機構と9大地域経済を構築していくかを示そうとする試みである。各地域経済に内在する構造の分析と9大地域経済の比較を通じて、私は中国の市場取引機構の規模と性質の多様性を総括する解釈を探索している。例えば（該書300頁を参照されたい）、中心市場機構の平均的な範囲は、人口密度と反比例するのに、その平均人口は、曲線的に変化する。つまり、経済地域のうちでもっとも人口稀薄なところ（西北中国と雲南・貴州高原）ともっとも人口密度が高い地域（揚子江下流域）とで小さくなり、人口密度が中程度に落ちこんでいる経済地域（揚子江中流域と上流域）でもっとも高くなる。この発見は、本書の第1表に示した関係に一致する。

標準市場社会の内部については、私が第1章（後半）を書いた時に想像していたものよりも、はるかに多彩で興味深いことが、この15年間に発刊された業績から明らかである。標準市場社会の水準の下にある特別な村落機構は、

上流の宗族、水利組合、穀物の見張りをする〔看青〕会、政治儀式のための“盟約”（「約」、「社」、「郷」という多様な術語の下にある）、特殊な神々や寺廟の支配権によって多様に構築されている。大部分でないにしてもその多くが、単一の組織原則に留まらないことを明示する多目的の会である。少なくともいくつかの事例では、これらの地方的な機構は、標準市場機構のなかに完全に包みこまれるのではなく、むしろ私が“自然の”経済的位階として性格づけて提示した位階性をもって堆積する様式に重なりあっていく。特に次の文献を参照されたい。

Maurice Freedman, *Chinese Lineage and Society: Fukien and Kwangtung*, London: Athlone Press, 1966, pp. 23-25, 79-96.

Philip A. Kuhn, *Rebellion and Its Enemies in Late Imperial China: Militarization and Social Structure, 1796-1864*, Cambridge: Harvard University Press, 1970, pp. 76-104.

Sidney D. Gamble, *North China Villages: Social, Political and Economic Activities Before 1933*, Berkeley: University of California Press, 1963, chaps. 3-5.

Wang Shih-ch'ing, "Religious Organization in the History of a Taiwanese Town," in Arthur P. Wolf, ed., *Religion and Ritual in Chinese Society*, Stanford, California: Stanford University Press, 1974, pp. 71-92.

John A. Brim, "Village Alliance Temples in Hong Kong," in Wolf, ed., 1974, pp. 93-103.

Arthur P. Wolf, "Introduction", in Wolf, ed., 1974, pp. 5-6.

それにもかかわらず、擬似的な政治機構としての標準市場社会の重要性は、

新しい研究によって十分に裏づけられた。村落から一、二段階高い水準では、政界と非公式の行政単位は標準市場機構であり、しかも経済的活動と同じように政治・行政活動は市場町に集中され、市場取引の週回の定期性を反映している。最近の新しい学者の多くは、政治・行政組織それ自体よりも準軍事組織に焦点をあて、それも大部分が19世紀に関係している。民兵と市場の位階については、次の文献を参照されたい。

Robert G. Groves, "Militia, Market, and Lineage: Chinese Resistance to the Occupation of Hong Kong's New Territories in 1899," *Journal of the Hong Kong Branch of the Royal Asiatic Society*, 9, (1969); Kuhn, 1970, pp. 82-87.

Winston Hsieh, "Peasant Insurrection and the Marketing Hierarchy in the Canton Delta, 1911," in Mark Elvin and G. William Skinner, eds., *The Chinese City Between Two Worlds*, Stanford, California: Stanford University Press, 1974, pp. 119-41.

Maurice Freedman, "The Politics of an Old State; A View from the Chinese Lineage," in John H. R. Davis, ed., *Choice and Change: Essays in Honour of Lucy Mair*, London: Athlone Press, 1974, pp. 82-88.

市場町が伝統中国の景観上にどのようにして増感していくかという過程に関する発展モデルは、本書の第2章の初めに取り上げておいたが、その後、私の学生で、現在、オーストラリアのブリズバンのグリフェス大学で教鞭をとっているローレンス・W. クリスマン博士 Dr. Lawrence W. Crissman によって磨き上げられている。クリスマンの批判と修正は、次の論文の202～08頁に要約されている。

“Specific central-place models for an evolving system of market towns...” *Regional analysis, Vol. 1, Economic systems*, edited by Carol A. Smith, New York: Academic Press, 1976, 183-218. 中国の地域構造に関するその後の私の仕事を踏まえ、現在、本書に取り上げた2種の発展モデルについて、私はさらに進んで微分を行なって詳論するつもりであることを取りあえず付け加えておく。

いうまでもなく農業社会における定期的な市場取引の比較研究は、人類学者と同様に地理学者や歴史学者の興味を引きつける。この論文が最初に出版されて以来、いくつかの实地研究論文や歴史研究論文が、アメリカ、ラテン・アメリカ、ヨーロッパおよびアジアの他の部分について多様な問題を調査している。これらの研究は、伝統的でかつ近代化しつつある農業社会の経済構造と変容過程を私がより包括的に理解を深めようとするのに役立っている。日本人の学者は、その進歩を生むのに多くの寄与をなしているし、さらに、この翻訳の出版をきっかけとして、中国学の分野と同様に学問上の国際的な研究協力が促進されるよう願っている。

最後に、本書を大阪大学の斯波義信教授に捧げたい。友人であり、研究仲間であり、模範的な学者である彼は、私の日本の学界との緊密な結びつきを準備してくれてから久しい。

1979年5月7日

G. ウィリアム＝スキナー



凡 例

1. 底本は、Association For Asian Studies, Inc. の合冊リプリント版を使用した。底本との異同は解説に詳述した。
2. 原文の“□”は、引用文を示す場合は「□」で示し、その他はそのまま表記した。
3. 原文のイタリック体表記は、外来語を示す場合は本文と同様に普通に表記し、強調の場合は7ポイント・ゴチック活字で表記した。
4. () は、全て原著者の注を示す。原著者の引用文中の[] も() に改めた。
5. [] はいかなる場合も訳注である。
6. 図版は底本を影印し、必要に応じて漢字を併記した。

も く じ

日本語版への序文

序	3
第1章 農村市場の構造	7
第1節 市場地と中心地	7
第2節 定期性と市の開催日	14
第3節 空間的・経済的な機構としての市場構造	25
第4節 社会組織としての市場構造	46
第2章 農村市場の変容過程	63
第1節 伝統的過程における変容	63
第2節 近代化過程における変容	84
第3章 人民公社と市場社会	109
第1節 人民中国の農村市場	109
第2節 市場社会と農村人民公社	135
原 注	159
解 説	207
原著に関する日本の研究動向	221

中国農村の市場・社会構造

序

筆者は本書において、中国農村の市場取引の一側面を叙述し、予備的な分析を行なおうとするものである。この問題はこれまで等閑に付されてきたとはいえ、問題の重要性は単に経済学上の学問的関心の領域をはるかに超えるものであり、特に人類学者には格別の興味をそえるものである。なぜなら、中国に関しては、ここに述べようとする種別の市場構造が、「農民社会」あるいは「伝統的農業社会」と呼ばれる個々の諸文明の総体に該当する特性を表わしているからである。この種の重要な範疇に属する複合社会のもとでは、市場構造は例外なく地方的な社会組織を形成するとともに、無数に存在する農村を全体社会という単一の社会機構に統合するのに不可欠な最頻値を備えている。それらを統合する作業が達成されると、異例に膨大なものになるから、中国の農村市場取引の事例研究は、伝統的農業社会における農民の市場取引を比較研究するうえで戦略上の要となることは明らかである。というのは、中国社会は他に例をみないほど持続し、安定を保ち続けた結果、各地域で市場組織が近代化の洗礼をうける以前にすでに十分な成熟段階にまで発達をとげていたからであり、しかも、中国の市場取引を数世紀にわたって実証できる資料が存在するので、その系統的な発達過程、つまり伝統のなかでの変化に関する研究に豊富な素材を提供してくれるからでもある。

伝統的組織からの離脱を表明する変化、つまり伝統的農業社会から近代的工業社会への移行の開始を告げるものであるが、その変化についても、農村市場取引を研究してこそ有効に解明できるのである。市場地の分布や市場取

引行動の様式を類型化していくと現われてくる根本的な変化は、近代化の進展度を測定するのに鋭敏な指標となる。今日の人民共和國時代を含めて、中国近代史の各時期を通じ、農村市場取引に深い注意を払わねばならないのは、そのためである。集団化の個々の単位と市場取引の個々の組織とは、相互に対応関係にあり、そのためにここ10年間、この課題はとみに重要性を増してきた。本書における筆者の、ひとつの意図は、1949年以後の中国農村の発展を的確に理解するには、その前提としてまず前近代の農村市場取引を分析しなければならないことを示唆することにある。

中国の地方的な市場取引に関する研究文献は、比較的小さいけれども、²⁾ 分析のための原資料は豊富にある。幾千もの方志、つまり県やその他の行政単位について地方で作成された方志は、地方の市場地につき、時には市場取引の過程まできわめて克明に記載している。これらの類いの旧時代の文献に加えて、中華人民共和國成立以前の過渡期における外国人観察者の記述、地方新聞の記事、事実調査をへて蒐集された一次資料、および少数ながら学問的な実地調査さえもが利用できる。1949年以前であれ、以後であれ、中国本土の農村市場取引研究に関して、特に豊かな資料源として挙げられるべきは、台湾や香港や海外に移住した本土出身の多くの人々から資料聴取を行なうことである。つまり、彼らはそれぞれ自分の生れ故郷の在地の市場機構に何年ものあいだ関わってきたからである。

この研究に用いた資料は、(i) 筆者自身が1949年から翌年にかけて四川省で行なった実地調査と、³⁾ (ii) アメリカ・香港・シンガポールに居住する移民のうち、⁴⁾ 限られた人々への集中的な聴取調査と、さらに、(iii) 多数の方志と、(iv) 各種出版物である。しかし、本書では利用できるそれらの資料を網羅しえず、それら全てを包括しつくすことはできなかった。

*
本書は、三部作の形をとる。第1章、ここでは市場取引機構の構造に注意がふりむけられ、その分析は本質的に共時的なものになる。第2章では、人民中国以前の中国本土における伝統的な段階と近代的な段階の両方にわたる変化の必然的な過程について取り扱う。第3章では、人民共和国における日用必需品の分配が、旧来の農民の市場取引とどのように結合しているのか、そして農村の集団化が従来の自然的な機構、とりわけ標準市場とどの範囲でかみ合っているのかにつき検討を行なう。[*から*の部分は、著者の指示によって改稿した部分]

第1章では、予備的な2つの問題、つまり市場地の諸類型と市日の設定原理に関する考察から筆を起す。それに続く各節では、まず市場構造について空間的かつ経済的組織としての面から取り上げ、ついで社会的かつ文化的組織としての面から取り扱うこととする。

第1章 農村市場の構造

第1節 市場地と中心地

中心地とは、都市、町、およびその他の中枢サービス機能をもつ核集落の総称であるが、その分類の方法はさまざまでありうる。ここでは、クリスタラーとレッシュを手がかりとして論を進めたい。⁵⁾これらの学者に由来する慣例的な分析の方法を使うと、一つ一つの中心地は、網状の空間機構内に占めるその位置によって類型区分されうるし、しかもその空間内での経済機能は位階水準の上下に従って異なると考えられている。⁶⁾注釈を加えれば、中心地階層が規則的であること、機能が組織内に占める位置に整合しているということの2つの事実は、数世紀にわたって多様な様式で中心地の機構に作用し続ける多くの力、——これを永続的な“エントロピー〔熱力学的状態関数〕”と言いかえてもよいが——、その条件しだいで現実に生じてくるか、あるいは少なくとも増幅されるものと考えられる。⁷⁾

それはさておき、中国の場合には、その長く比較的安定した王朝時代の末期には、規則的な位階性を備えた市場組織における集落の位置と集落の経済機能とが整合しているという仮説を立てることで、はじめて中心地についての分析が容易にできるのである。

中国の農村地域は驚くほど多様な集落を擁しているが、それらを有意の範